

草野球参加に及ぼす高校野球の影響

○横井 康博（中京大学大学院） 藤原 健固（中京大学）

キーワード 草野球 高校野球 教育性

1. はじめに

草野球は、あらゆる年齢層、あらゆる経歴をもつ人、そしてあらゆる職業をもった人などが集まって、チームを作り、リーグ戦、大会、練習などを楽しむ。これは、週休2日制が定着しつつある今日ももちろんだが、過去から長年にわたって生涯スポーツの一つとして用いられてきている。現在は、サッカーのプロ化、国際大会やオリンピックでの日本選手の活躍やスポーツ人気を手伝って、スポーツが多種目に分散してきている。その為、昔のように野球に対しての人気や勢いがなくなってきていると言われている。しかし、一時期のブームは去ったとは言え、未だに多くの成人男性に親しまれ、他種目に比べると多くの人々が、活用している草野球について研究することにした。

ここでの草野球とは、企業戦略のために野球の強化をはかる広告用のクラブチームではなく、素人が集まって行う野球の事である。

この生涯スポーツの一つとして成人男性に親しまれ又活用されている草野球に参加しようとする背景に、高校野球での経験があるのではないかと考えた。高校野球連盟がうたっている“高校野球は教育の一環である”という教育的側面について、高校野球経験者が、どのように考え、どのように受けとめ、どのように現在の自分に活かされているかに関心をもった。

そこで本研究では、草野球に参加している高校野球経験者に対して意見を求め、どのような考えで野球を継続しているのか、それには高校野球経験がどのように影響しているのかを分析、検討しようとするものである。

これらをもっていく研究方法として、高校野球を経験して、現在、草野球に参加している学生、社会人10名に面接を行った。

2. 草野球参加における高校野球の影響

現在、草野球を行っていて、高校野球経験のある人たちに意見を求めてみると、大きく3つの項目に分けることができた。

これは、次のように

- 1) 高校野球経験時にどのように高校野球の教育性を感じたか
- 2) 草野球参加のメリット
- 3) 高校野球参加時と草野球参加時との野球に対しての姿勢の比較

1) 高校野球経験時にどのように高校野球の教育性を感じたか

ここでの教育性の感じ方で目についたのは、やはり精神的な向上が、図れたと感じた人が、多かったことである。厳しい練習や、上下関係など高校時代には苦痛にしか感じなかった事が、現在の自分にとって欠かすことのできないもの、財産として残っている事を感じている人が多い。

同様に、球友と共に苦しみ、楽しみを分かちあい、目標に向かって頑張ったことで、上

辺だけの付き合いではなく、心底つきあえる又信じあえる仲間づくりができたことを答える人が多かった。

更に、技術、体力的な側面で、多くの人が進歩を認めた。具体的には、体力的に、病気やケガをよくしていたが少なくなったことや疲労の回復が早くなったという事があげられた。

進路問題では、高校野球という自分の特技としている野球で、大学に推薦されたり、就職に有利になったという人が、少なからず見られた。この特技のおかげで浪人せずすんだり、自分の勉学のレベルよりも高い大学に行けた人もいた。

協調性に関しては、団体スポーツ全体にいえることだが、仲間としてすぐにとけ込め、人との接し方がスムーズに行える。また、フォーメーションプレーを行ってきたおかげで、人のいわんとしていることがわかり、人より先に気が付いて行動ができる利点が培われてきた、点などがあげられた。

反教育的な側面としては、指導者に対しての批判が圧倒的で、指導者の固定観念で選手の個性を押しつぶすのはどうかという意見、練習時間が長すぎて勉強する時間が減る又お金がかかりすぎる、などの点があげられた。逆に、反教育的な事はないという人は、高校野球というものが世間的に反教育的だと言われることも、肥しになることが多いと指摘した点が、注目された。

要約すれば、礼儀正しさや忍耐力の向上などの精神的鍛錬、厳しい練習に耐えての体力向上、球友と共に苦しみながら又楽しみながら目標に向かって頑張った仲間づくりや協調性の取得など、プラス面とマイナス面が入り交じりながらも、高校野球の教育性を多く感じている人がほとんどであった。

これは、高校野球というものが、絶大な人気を誇り、注目度が高いため、その中で3年間やり遂げたという満足感、充実感が、後に社会に出てから大いに発揮されるからである、と考えられる。

2) 草野球のメリット

草野球参加によって何が得られ又何を求めているのかについて、意見を求めた。それは草野球参加が、高校野球経験に影響されているかどうかをみるためであった。

草野球参加から得られるもので最も多かったのは、知らない地域の人たちや職業の違う人たちが集まることによって、仲間が増えることは勿論の事、人の意見を聞くことによって社会勉強になり、野球を通じて今までとは違う世界に入ることができる、という点であった。喜びとしては、「野球自体がやれば」、「自分自身が楽しみを感じれば」というようなレクリエーション的な考え方があり、こういう人達は、勝敗には全くこだわらない。一方「チームで活躍できた時」「チームが勝った時」というような競技的考えを持つ人たちは、勝敗にこだわり、「やるからには勝ちたい」と答えた。しかし、両方ともゲーム後の酒盛りは、共通しており、「これだけが楽しみ」「この酒盛り中心に草野球参加を考えている」などゲーム後に楽しみ、喜びを見いだしていた。

今後、そういった喜びを味わう草野球を継続する意志があるか意見を求めたところ、「ある」が少し上回ったが、ほぼ半々だった。「ない」が約半分を占めたのは、年齢的な体力の衰え、精神的な問題(執着心の薄さ)、年齢にあった他種目への移行などによるものであった。また、「ある」の意見をみると、野球に対してのイメージが良く、「野球あ

っての自分」と考える人がほとんどであった。そして、体が動かなくなるまで継続する意志があり、将来は自分のチームをつかって、草野球を続けていきたいという意見もあった。

草野球参加と高校野球との関連について、「高校野球を経験していなかったら草野球に参加していたか?」「高校野球に対して満足しているか?」について聞いた。その結果、「過去に満足したり、勝敗にこだわる野球をやっていたら、現在、草野球に参加していないと思う」と答えた。

要約すれば、草野球参加までのプロセスに、高校野球経験の内容の相違が影響したり、草野球参加のメリットを精神的なやすらぎに求める人、競争心によって喜びを求める人、そしてゲーム後の集会で楽しさを見いだす人など、同じ高校野球経験者でも、野球に対しての捉え方、考え方が様々であることがわかった。それぞれ考え方の相違はあっても、根本的には、野球が好きであるということが、その根底になることが理解される。

3) 高校野球参加時と草野球参加時との野球に対しての姿勢の比較

目についたのは、勝敗へのこだわりだった。「勝敗へのこだわりは、高校野球が関係していると思うか?」との問いに10人中9人が「ある」と答えた。

高校野球で強豪といわれるチームを経験して草野球に参加している人は、勝つ事を前提とし、付随的に喜びや楽しみを見いだす傾向があった。これに反し県立高や進学校に所属していた人は、高校時代と同様に勝負にこだわらず、楽しく行おうといった傾向がみえた。

前者からは、勝つ事によって面白味や楽しみが得られ、勝とうとするプロセスが大事であるという意見が出された。しかし、勝つ事への執着心は、草野球では、格段に薄いことがわかった。逆に後者からは、精神的に窮屈な野球は好まず、楽しさ、体力保持、仲間づくりができれば、それで満足という意見が多かった。

その両者に対して高校時での相違をみるため、高校野球の勝利至上主義について質問をした。賛成が10人中8人であった。2人の反対者は、後者の中で出され、それについて意見を求めると教育的に良くない、勝負より人間形成ということだった。また、後者で高校野球の勝利至上主義について賛成と答えた人に聞くと、「第三者的には、そういう野球があってもいいと思う」という答だった。

高校野球と草野球との姿勢、考え方をみるために、「野球に対して見方が変化したと思うか?」という質問に対して「ある」が10人中7人であった。その「ある」を見ると、「高校時代は楽しくなかったので、現在は、楽しい野球を求めている」、や「トップレベルの野球を経験したことによって、勝敗より内容というように、野球を奥深く見られるようになった」という意見がだされた。

要約すると、高校野球と草野球とでは、野球に対しての入れ込み方が全く違う。それは、高校時代に経験した野球が、現在の草野球での考え方や取り組み方を左右していることを示している。すなわち、高校野球経験が少なからず影響しているのである。

3. おわりに

本研究では、対象者を10名に絞り、面接法によってより詳細に、より正確に研究を進めていこうと試みた。

その結果、高校野球の経験が、草野球経験に関与している側面があきらかにされた。しかし、被面接者に多少の年齢上の片寄りがみられた。

	年 齡	職 業	学 歴	経 験 年 数 *	(草)	頻 度(回)	実 施 時 間(h)	交 通 手 段	所 要 時 間	会 費(円)	チ ーム の レ ベル (高)	(草)
A	39	八百屋	N大卒	30	15	月 3~4	2	車	0.1	月 1600	上	上
B	24	講師	C大卒	14	2	月 4	2	車	0.5	月 1600	中	中
C	23	会社員	C大卒	13	1	月 2	4	車	0.1	月 なし	上	上
D	24	整備士	T高卒	15	6	月 2	4	車	0.3	月 3000	上	中
E	22	学生	C大卒	10	2	月 1	2~3	車	0.5	月 なし	中	中
F	24	団体職員	C大卒	14	4	月 2	4	車	1.1	月 2000	上	中
G	24	サービス業	C大卒	14	2	月 4	2~3	車	0.5	月 5000	中	上
H	30	会社員	C大卒	11	7	月 1	2	車	0.2	月 -	上	中
I	41	公務員	N高卒	25	15	2ヵ月 1	3	車	0.5	月 2000	上	上
J	23	大学院生	C大卒	14	3	3ヵ月 1	4	車	0.3	月 無納	上	上

*過去から現在までの野球経験年数(草野球も含む)
(高)高校野球 (草)草野球